

かあちゃんがんばるぞ

加藤光子

子どもの頃 かあちゃんは
字が書けないばかりに
友だちにバカにされた
口惜くやしさと 恥はずかしさで
誰もいないところでさんざ 泣いた
かあちゃんだって字をおぼえたいと思った
家が貧乏ひんぱんのため学校に行かれなかった
悲しくて 悲しくて
「こんな貧乏ひんぱん家になぜ生んだ」と言って
親をうらんだこともあったっけ
二度とお前たちには
字の書けない人間にしたくない
胸を張って自分の生まれた所を
はつきり言える 子どもにしたい
どんな差別も 跳はね返す子どもにしたい
お前たちの教育をつけさせたい
かあちゃんたちは
苦しみながら みんなと話し合った
苦しみながら みんなと話し合った

かあちゃんの願いが声となった
みんな団結しろやあ！
みんながんばれやあ！
だがなあ……
父ちゃんは土方どかた・出稼でかせぎ・山仕事
その日暮らして食べてゆけない
みんな困って考えた
父ちゃんがだめなら
かあちゃんでも がんばれやあ
そして
かあちゃん支部が生まれた
かあちゃんの支部長
もう あれから十年になる
差別をなくすいろいろな勉強もした
だが！
ちっとでも差別はなくならない
部落の人たちは ちがうと言う
良い仕事がないからか